



第108号

北海道ポーランド文化協会会誌「ポーレ」

2023.1.20



第104回例会  
第105回例会



ポーランドの  
名作映画2本!

ビデオ鑑賞&交流会 2023

## 『エロイカ EROICA』

1958 | ポーランド | 白黒 | 87分  
アンジェイ・ムンク監督

代表作『パサジェルカ』(1963)撮影のためアウシュヴィッツ収容所からの帰途、39歳の若さで不慮の事故死を遂げた名匠の傑作。同じワルシャワ蜂起を取り上げながら、アンジェイ・ワイダ監督の『地下水道』(1957)とは違ってレジスタンスの人々をシニカルに描いた。題名はベートーヴェン交響曲第3番『英雄』(別称『エロイカ交響曲』1804)から。

2023. **2/20** (月) 18:30~

札幌エルプラザ4F 中研修室

第一話「ポーランド風スケルトン」の主人公、陽気な中年男ジジュシ(エドヴァルト・ジェヴォンスキ)は国内軍兵士の任務を放棄しハンガリー軍の伝令を引き受けたものの、危険な戦闘地域を通り抜けて自宅と国内軍司令部との間を数回往復するはめになる喜劇的な話。



第二話「オスティナート・ルグーブレ(悲痛な執拗反復)」はドイツ軍の捕虜となりアルプスの将校用収容所に送り込まれた軍人の悲惨な姿を描く。ワルシャワ蜂起で闘った新参の将校達は英雄主義を捨てる必要があると自覚しているが、開戦時から捕虜の古参将校達は過去の栄光にこだわり、収容所からの脱走に唯一成功したザヴィストフスキ中尉(タデウシュ・ウォムニツキ)を英雄視しているが、実は…。

一見対照的な二つの物語は、両者とも「英雄主義のための英雄行為」に距離を置いた冷静な批評家精神に満ちている。ムンク作品に特有の滑稽さと憐憫の情が同時に表現されているとともに、故国の歴史に向ける冷徹な視線は、その人間描写の深さと鋭さにおいて卓越している。

## 『イマジン IMAGINE』

2012 | ポーランド/ポルトガル/フランス/イギリス合作  
カラー | 105分 | アンジェイ・ヤキモフスキ監督  
ワルシャワ国際映画祭 監督賞・観客賞

ポルトガルの美しい古都リスボンの視覚障害者施設に“反響定位”という方法で白い杖を使わずに歩ける視覚障害者のイアンがやって来る。生徒達を危険にさらさぬことを条件に、イアンは教師として採用され、子供達にこの技術を教え、外の世界に出ることの素晴らしさを伝えていく。

2023. **3/13** (月) 18:30~

札幌エルプラザ4F 大研修室

引きこもりがちだった女性エヴァもイアンに興味を抱き、彼の技術を学んで二人で街へ出かけバーでワインを楽しむ。イアンは「近くに港があり大型船が入りしているはず」とエヴァに話す。だが、そんなイアンの授業が、生徒達の安全を第一に考える診療所側にとって懸念すべき問題になりつつあることを彼はまだ知らない。イアンの言う「船」は本当に存在するのだろうか。そして二人の行く末は…。

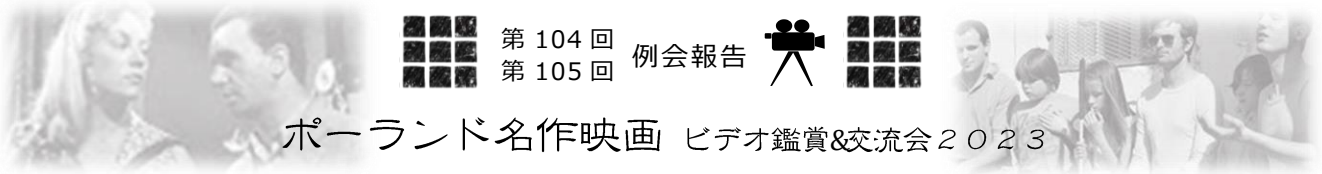


夜のリスボン港や坂の多い旧市街と市街電車は実に詩的で絵になる風景だ。音響設計が素晴らしく、これほど盲目の方の気持ちに寄り添った映画は珍しい。

監督はポーランドの若手を代表する気鋭の映像作家。アウトロー的な風貌でイアン役を演じたエドワード・ホッグは、日本では本作以外あまり知られていないが英国王立演劇学校出身の演技派。エヴァ役のアレクサンドラ・マリア・ララは、幼少時チャウシェスク政権の圧政を逃れ家族とともに移住したルーマニア系のドイツ女優。『ヒトラー最後の12日間』(04)の秘書役、『コッポラ胡蝶の夢』(07)の一人3役は忘れがたい。

(池田光良)

入場無料、予約推奨、連絡先 : hokkaidopolandca@gmail.com, 011-384-5984 (園部、Fax 兼)



## 『エロイカ EROICA』2/20

会員11名、一般12名が参加。ビデオ鑑賞会は毎回高齢の方が中心ですが、今回は20代の方も数名参加されました。

「英雄的行為」とは何か、『地下水道』とはまた違った視点で、ドイツ占領下のポーランド人の意識をシニカルに描いた作品でした。『パサジェルカ』でも感じたことですが、ムンクの人間洞察は深いです。

上映後の懇談会では、現在のウクライナ戦争に絡めた感想もありました。

アンケートでは「大変良かった」2名、「良かった」5名でした。

## ◆アンケートの感想より

- ・司会の池田さん=下写真=のリードがすばらしかった。皆さんからの意見発表を引き出して下さり大変良かった。映画を見てお互いに意見交換を楽しみたい。(77才、無職)
- ・「ワルシャワ蜂起」は言葉だけ知っていて詳細を知らなかったので勉強になりました。映画の描き方の立派な人間とはいえない部分やコミカルな部分に戸惑いがありましたが、他の方のお話を聞きながら改めて味わって考えをめぐらせてみたいと思いました。チャップリンの映画を思い出した。(53才、会社員)
- ・まったく予備知識が無く観たので映画の背景や伝えたいことが理解できず残念。今日をきっかけに興味を持って調べてみたいと思いました。(59才、アルバイト)
- ・ポーランドのロシアぎらいが良く判った。(72才、無職)



## 『イマジン IMAGINE』3/13

会員11名、一般12名が参加(前回と顔ぶれは多少異なります)。懇談会では、リスボンの街並みは美しくぜひ一度行ってみたい、視覚障害がテーマで重い作品になりがちだが、ラブロマンスに仕上げたのが良かったなど、活発な感想をいただきました。

ラストシーンが非常に印象的な作品でしたが、映画研究者の坂尻昌平氏からこの作品のカメラワークについて鋭い指摘をいただきました——この映画でカメラはずっと近景しか映し出していない。それは視覚障害者の立場を反映した描写といえるが、最後のシーンで一気に遠景描写に切り替えたところに、イマジンすることで今まで見えていなかったものが見えてくることを表現するという制作者の意図がある——という趣旨だったと思います。

アンケートでは「大変良かった」5名、「良かった」3名でした。

## ◆アンケートの感想より

- ・ポルトガルは数年前、1週間ほど滞在した。リスボンはタイムストップした街で落ち着いた大好きな所であつた。(73才、無職)
- ・視覚障害者達の日常生活を見事に描いている。(73才、無職)
- ・イアンとエヴァの悲恋？イアンの想像はウソ？ホント？(74才、無職)
- ・一編の映画として面白いと思ってみているが、それは何を描きたいのだろうか？意図が良く分からない。もう少しストーリーを追えば分かるだろうか？という興味だった。しかし、最後まで良く分からなかった。視覚障害者を描いているのだが、訴えたいのはそこだったのだろうか。良く見るとポーランド、ポルトガル、フランス、イギリスの合作とあるのだが、何故これらの合作なのか、その背景が良く分からなかった。そこが知りたいと思う。(66才、会社員)
- ・いつも、ポーランド映画をありがとうございます。知らない映画を今後も上映していただけたらうれしいです。(66才、バイオリン講師)
- ・見終わった直後は視覚障がいのある方々の映像に衝撃を受けて混乱し、次に皆さんの感想を聴かせていただいて新たな視点が得られ、さらに時間をおいてからじわじわと心が動かされました。(50代、会社員)

(報告:園部真幸、運営委員)

## ポーランドの巨匠 イエジー・スコリモフスキ監督最新作 『EO イーオー』

旅するロバの物語、全世界が息を呑んだ、現代の寓話×無比の映像体験

第95回アカデミー賞 国際長編映画賞ノミネート

第75回カンヌ国際映画祭 審査員賞/作曲賞受賞

2022 | ポーランド/イタリア | 88分 | カラー

| ポーランド語/イタリア語/英語/フランス語

2023.5.5~ シアターキ  
最終日はご確認ください (011-231-9355)

